



100周年を共に祝いましょう

第7代経鷲会会長 上原 隆一
(1976年経済学部経営学科卒)



ご存知のとおり母校は本年創立100周年を迎えます。それでも早稲田、青山、立教などはそれぞれ130年以上、慶應に至っては150年以上の歴史を持っているわけで、歴史の長さだけを誇っても無意味とは存じますが、上智はそのルーツを求めれば聖フランシスコ・ザビエルが日本の首都に大学を築きたいと思われたことに由来しているわけですから、460年以上の歴史を内包しているということも考えられます。もっとも100周年は大きな区切です。また本年、短期大学部は40周年、社会福祉専門学校は50周年の節目を迎えます。

現在大学もソフィア会も記念事業が目白押しとなっております。詳細はそれぞれのWEBページに譲ることとしても、主なものだけでもASFは「ASF100年祭」と銘打ち20000人動員を目指し、第5回地域ソフィア会全国大会は「拡大東京大会」として四谷キャンパスで大々的に開催され、大学は11月1日の創立記念日に「記念式典」を企画しております。ソフィア会は同日夜ニューオータニ最大の宴会場「鶴の間(1500人収容)」で「記念祝賀会」を開催します。この祝賀会は不肖私が実行委員長を拝命しており、経鷲会役員も実行委員として現在企画内容を詰めております。詳細がまとまりましたらソフィア会及び経鷲会WEBページにてご案内申し上げますので、お申し込みをお待ちいたします。

発起人への応募ありがとうございます

大学設立と同時にスタートした経済学部も本年100周年を迎えるにあたり、「経鷲会100周年記念事業」の企画を昨年秋に発表いたしましたところ、早速別掲のとおり大勢の皆様が発起人に応募いただきまして、心より嬉しく感謝申し上げます。

しかしながらこの事業への発起人募集目標とはまだまだ隔たりがございます。経済学部への研究奨励金の倍増(100万円)を始め、私たちの母校への真の意味での貢献に繋がる活動に対し、一人でも多くの会員の皆様からご支援を頂戴いたしたく衷心よりお願い申し上げます。

発起人の皆様 (2013年3月15日現在)

氏名	卒年	氏名	卒年
長浜聖二	様 1953	佐藤武治	様 1970
飯田 進	様 1954	栗林次美	様 1970
末長能崇	様 1954	那波三郎右衛門	様 1971
徳永英生	様 1955	大塚 勉	様 1971
平野正之	様 1955	北出高一郎	様 1971
中島貞夫	様 1955	戸川 清	様 1971
池田敏行	様 1956	服部克己	様 1972
吉田 勉	様 1957	酒井和幸	様 1972
川野克美	様 1958	飯田 収	様 1972
三井重人	様 1958	庄村満寿夫	様 1973
本多義之	様 1958	宮内 純	様 1974
濱口吉右衛門	様 1960	仲井一彦	様 1974
小川晋一	様 1960	焼田 党	様 1975
三好 登	様 1961	小沢忠男	様 1976
瀬沼國三郎	様 1962	武井眞一	様 1977
酒井弥一郎	様 1962	成田眞一	様 1977
今岡幸雄	様 1962	松本佳晴	様 1977
岩下謙一	様 1963	溝間良輔	様 1978
太田 太	様 1963	服部 勉	様 1978
東郷 武	様 1963	戸松卓治	様 1978
牛込一郎	様 1963	鈴木恵子	様 1978
戸川宏一	様 1963	木下和子	様 1978
松下裕恵	様 1963	加藤康行	様 1979
滝澤豊成	様 1963	東 昇司	様 1979
竹内靖博	様 1964	東 和浩	様 1982
石渡成紀	様 1964	中西 徹	様 1982
池田賢吾	様 1965	前嶋浩文	様 1983
服部綾子	様 1965	鈴木 努	様 1984
和田 孝	様 1966	谷口達也	様 1986
野々垣健五	様 1966	山口 敦	様 1988
原田和男	様 1967	清澤信彦	様 1993
上原治也	様 1969	柴田 謙	様 1995
兼松 修	様 1969	桑原清幸	様 1996
小泉基靖	様 1969	戸谷充宏	様 1997
守田 誠	様 1969	原 智彦	様 1998
青木九一	様 1970	酒井淳史	様 2004
桑島 勉	様 1970		



SOPHIA 100th ANNIVERSARY
2013

2013年、いよいよ上智大学創立100周年を迎えます

上智学院は、2013年に上智大学創立100周年、上智短期大学創立40周年、上智社会福祉専門学校創立50周年を祝います。

Men and Women for Others, with Others

皆さんは上智大学100年の歴史をご存じでしょうか。100周年を記念して、ここに簡単に上智大学の歩みと初代～5代目までの学長をご紹介しますと思います。

◆ 聖フランシスコ・ザビエルの来日から大学設立まで

- 1549年(天文18年) 聖フランシスコ・ザビエルの来日
ザビエルは日本人の資質を高く評価し、日本の首都に大学をという希望をローマへ書き送ったことが上智大学設立に結びついた
- 1906年(明治39年) 教皇ピオ10世の要請とイエズス会の受諾
日本に高等教育機関の設立をイエズス会に要請、イエズス会はこれを受諾した
- 1908年(明治41年) 日本に大学を設立するために3人のイエズス会員来日
- 1911年(明治44年) 財団法人上智学院設立
上智という名は「聖マリアの連祷」のなかにある Sedes Sapientiae (上智の座) から名づけられたといわれる
- 1912年(明治45年) 東京市麹町区紀尾井町に校地購入



市谷キャンパスにある ↑
聖フランシスコ・ザビエル像

初代学長 ヘルマン・ホフマン (1913～1937)

1913年(大正2年) ヘルマン・ホフマン師、
初代学長に就任

- ・ 専門学校令による上智大学の開校
- ・ 哲学科、ドイツ文学科、商科を置く
- ・ 校章が定められる



1918年(大正7年)

- ・ 第1回卒業式挙行、卒業生は9人

1920年(大正9年)

- ・ 聖アロイジオ塾(学生寮の前身) 発足

1928年(昭和3年)

- ・ 大学令による大学として新発足
- ・ 文学部は哲学科、文学科の2学科、商学部は商学科を開設

1931年(昭和6年)

- ・ 商学部が経済学科と商学科の2学科になる

1932年(昭和7年)

- ・ 専門部を開設
- ・ 経済科、商科、法科、新聞学科を置く
- ・ 新校舎(現1号館)の竣工

1933年(昭和8年)

- ・ 校旗の制定、このころ校歌も作られた

1935年(昭和10年)

- ・ ハケ岳ヒュッテを開設
- ・ 留学制度が制定され、初めてアメリカのジョージタウン大学に学生を送る



第2代学長 ヘルマン・ホイヴェルス (1937～1940)

1937年(昭和12年) ヘルマン・ホイヴェルス教授、
第2代学長に就任

- ・ クルトゥルハイム開設
- ・ 西欧文化をその歴史的関連において正しく紹介するために講演会、座談会などが行われた この活動が戦後の公開講座に引き継がれる
- ・ ソフィア会(同窓会)設立

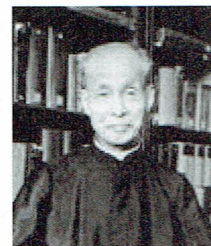


第3代学長 土橋八千太 (1940～1946)

1940年(昭和15年) 土橋八千太教授、
第3代学長に就任

1942年(昭和17年)

- ・ 文学部に史学科を増設



第4代学長 村上直次郎 (1946～1953)

1946年(昭和21年) 村上直次郎文学部教授、
第4代学長に就任

- ・ 公開講座(公開学習センターの前身) 開講

1948年(昭和23年)

- ・ 新制大学として発足
- ・ 文学部(哲、ドイツ文、英文、史、新聞)の5学科、経済学部(経済、商)の2学科を開設

1949年(昭和24年)

・国際部設置、外国人を対象に夜間に開設

1950年(昭和25年)

・真田堀グラウンド開場、学生の自治組織である学生会設立

1951年(昭和26年)

・私立学校法により学校法人上智学院となる
・大学院修士課程開設

1952年(昭和27年)

・文学部に教育学科増設



第5代学長 大泉 孝 (1953～1968)

1953年(昭和28年) 大泉孝文学部教授、第5代学長に就任

1955年(昭和30年)

・文学部に外国語学科増設、大学院博士課程増設

1956年(昭和31年)

・上智会館の竣工

1957年(昭和32年)

・法学部を増設、法律学科を設置
・女子学生の入学を認め4人が編入学、学生寮(男子)の開設

1958年(昭和33年)

・外国語学部を増設、英語、ドイツ語、フランス語、イ
スパニア語、ロシア語の5学科を設置
・神学部増設、神学科を設置

1959年(昭和34年)

・文学部に国文学科増設

1960年(昭和35年)

・石神井キャンパス神学部棟の竣工

1961年(昭和36年)

・明泉寮(女子)の竣工

1962年(昭和37年)

・理工学部を増設、機械工、電気・電子工、物理、化の4
学科を設置

1963年(昭和38年)

・創立50周年記念式典挙行
・宝台樹ヒュッテの竣工

1964年(昭和39年)

・外国語学部にポルトガル語学科増設

1965年(昭和40年)

・理工学部に数学科増設

1966年(昭和41年)

・文学部にフランス文学科、社会学科増設
・上智社会福祉専修学校(夜間)(現・社会福祉専門学校)
を開設
・推薦入学制度開始

1967年(昭和42年)

・電子計算機室(現・総合メディアセンター)開設、大
型コンピュータが導入された



◆校章と校名の由来

校章の鷲は真理の光を目ざして力強くはばたく鷲をかたどったもので、その姿は上智大学の本質と理想とを表わしている。

中央に示るされた文字は、本学の標語「真理の光」Lux Veritatisの頭文字である。

上智大学は、海外では早くからソフィア・ユニバーシティの名で親しまれてきたが、このソフィアはギリシャ語のΣΟΦΙΑからとったものであり、その意味は「人を望ましい人間へと高める最上の叡智」である。この叡智こそ本学が学生に与えようとする究極のものであり、本学の名称“上智”(SOPHIA)にほかならない。



◆上智大学校歌

作詞：逸見 貞男

作曲：山本 直忠

歌：上智大学グリークラブ

1. 見よ永遠に 春甦る
緑の樹響 高鳴るほとり
やすらに憩う ソフィアの鷲の
まなざし射るは Lux Veritatis

お、荘厳の学府 ソフィア
うるわしの アルマ・マーテル
ソフィア

2. 聞け黎明の 天翔けりゆく
鷲の翼の 空打つびびき
はがいに集う 生命の群の
めざす行手は Lux Veritatis

お、荘厳の学府 ソフィア
うるわしの アルマ・マーテル
ソフィア

3. 行け混濁の 闇打ち啓き
鷲のみちびく 輝く方へ
燃ゆる心に 固く結びて
叫べとどろに Lux Veritatis

お、荘厳の学府 ソフィア
うるわしの アルマ・マーテル
ソフィア



作詞 逸見貞男

作曲 山本直忠

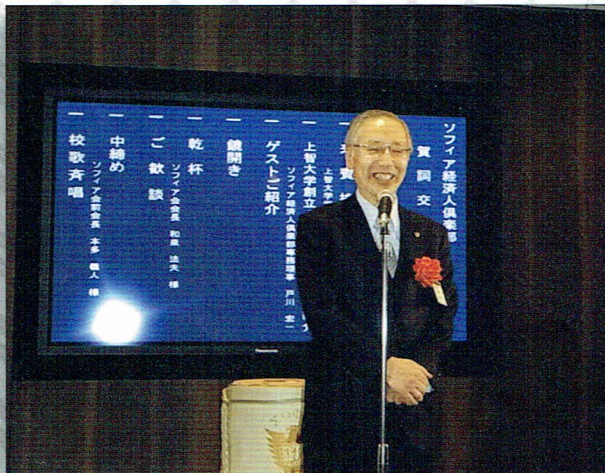
みよとこしえに はるよみがえる みどりのこだま
たかなるほとり やすらにいこう ソフィアのわしの
まなざしいるは Lux Ve-ri-ta-tis おお そうごんの
がくふ ソフィア うるわしの
アルマ・マーテル ソフィア



ソフィア経済人倶楽部 2013年 賀詞交歓会ご報告

ソフィア経済人倶楽部では、母校創立100周年の慶賀を迎え、大学・ソフィア会行事を盛り上げて行くための、記念の会にすべく賀詞交歓会を開催致しました。2013年1月24日18:00～アークヒルズクラブで114名の方々にご参加して頂くことができました。下記のように、多くのゲストにお越し頂き、華々しい一年の幕開けにふさわしいスタートを切ることができました。

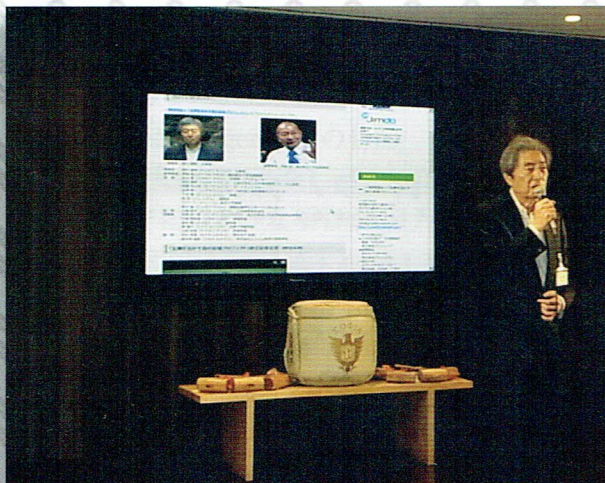
- | | |
|-------------|-------------------|
| 招待者 滝澤正 | 上智大学学長 |
| 招待者 荒木勉 | 経済学専攻主任教授 |
| 招待者 早下隆士 | 理工学部長 |
| 招待者 細川護熙 | 元総理大臣 |
| 招待者 和泉法夫 | ソフィア会会長 |
| 招待者 本多義人 | ソフィア会前会長 |
| 招待者 ドナル・ドイル | ソフィア会副会長 |
| 招待者 細川佳代子 | スペシャルオリンピック日本名誉会長 |
| 招待者 蟹瀬誠一 | 明大国際日本学部学部長、キャスター |
| 招待者 石井直 | 株式会社電通代表取締役社長 |
| 招待者 上野景文 | 元バチカン大使、杏林大学客員教授 |



上智大学 滝澤正学長の挨拶



鏡割り(左から、細川佳代子氏、和泉会長、滝澤学長、本多義人氏、早下理工学部長、蟹瀬誠一氏、上野氏、細川護熙氏)



細川護熙元総理大臣よりお言葉を頂戴しました



ソフィア経済人倶楽部会長 濱口敏行氏より挨拶



ASF オールソフィアンフェスティバル

2013年5月26日(日)に100周年記念祭 ASF を開催致します。「100周年記念祭 ASF」は、出会い、繋がりを大切にした Festival になる予定です。

上智大学の100周年のテーマである『叡智が世界をつなぐ』を受け、上智大学の精神(歴史)を知り、歴史に敬意を表し、101年目に踏み出す記念祭となりますので皆様奮ってご参加ください。

Twitter アカウント @sophia_asf では、より100周年記念祭 ASF まで100日間、カウントダウンツイートを実施します! Facebook でも Twitter と同じ内容をお知らせしております。

<http://www.facebook.com/allsophiansfestival>



ASF 100年祭企画 「経鷲会ワインセミナー」のご案内

経鷲会は会員の皆様に、自覚と、情熱と誇りを持ち、互いの交流を密にして、「参画する喜び、語る喜び、学ぶ喜び、協力する喜び」を共有する“場”を提供し、且つ、互いの持つ優れた知識を共有する“場”を提供する。という理念に基づき、本年も次のように ASF に出展いたします。どうぞご来場をお待ち申し上げます。

5月26日(日) SJ ガーデン中央部藤棚付近

－普段はなかなか立ち入れないお庭です－

・経鷲会コーナー 11:00～14:30

・ワインセミナー 13:00～14:00

内容:料理とワインのマリアージュ

100周年のお祝いは地元東京がテーマ。

初夏のハーブ、野菜、食材を使ってワインに合う料理の試食とワインの解説を行います。

担当 上原恭子(野菜ソムリエ)

上原隆一(シニア ワインアドバイザー)

※参加人数に限りがあります。ご了承ください。



上智大学卒業生向けのサイトはこちらです <http://www.sophia.ac.jp/jpn/top/alumni>



研究奨励金への寄付の御願い

この研究奨励金は、経済学部成績優秀な学生に対して行う制度で、上智大学募金室を通じ、経済学部に支払いしております。これからこの活動を活性化させていくためにも、皆様の寄付のご協力を宜しく御願い申し上げます。

また、経鷲会会費(年会費¥3,000)の納入も合わせて引き続き、どうぞ宜しくお願い申し上げます。尚、寄付を頂ける場合はその旨、お振込の際に、「ショウレイキン」と明記くださいませ。(奨励金は1口2,000円以上で御願いたします。)

振込先:郵便局 口座名:上智大学経鷲会 口座番号:00150-8-537559

“What is wealth management” セミナーご報告



2012年9月29日にロスチャイルド銀行（スイス）、Senior Vice-Presidents エリック・ボナー氏をお招きした講演会を実施しましたが、その続編にて日本在住で同じロスチャイルド銀行のビジネスに携わられているエリック・ウルナー先生をお呼びして“What is wealth Management?”という題目にて講演を行って頂きました。会の主催者である田村隆さんのNOTEから講演の内容を一部ご紹介します。

◆そもそも Wealth Management とは？

- もとは Private Banking という呼び名から始まり、アメリカを中心に Wealth management として発展してきた。
- なんと、2000年前のメソポタミア文明の頃より手形、LC（信用状）は、存在しており、組織的な銀行の起源とされているのは、1200年前の十字軍として遠征する際、出征する兵士が友人に財産を託した事とされています。（すなわち、I trust you. から始まった）

◆銀行の始まり

- 近代的な銀行の始まりは1400年代にイタリアのメディチ家から。
- その他の投資銀行の始まりは次の通り。
1692 Coutts（英国王室御用達）
1750 Rothchild,
1798 L&O,
1805 Pictet



◆投資銀行の成り立ち

- アメリカでは1900年頃から投資銀行が始まる。小さなファミリー系の投資銀行。メロン銀行、グレース銀行
- 日本では1920年頃から財閥系の投資銀行があったが、戦後解体。
- 1945年以降、クレディスイス、ドイツ銀行・・・そして現在は投資銀行にとっての変動期に来ている。
- ヨーロッパの投資銀行の特徴は、ユニバーサルバンキング。1つの許認可で銀行、信託、証券など全てできる。日本では、銀行、リース業、証券業務、信託についてそれぞれに許認可が必要で＝日本に進出しようとするコスト高になってしまうという事情があります。

◆なぜスイスに多くの投資銀行の本部があるのか？

- 現在投資銀行がスイスジュネーブに本部があるのは：フランス革命でフランスの貴族がスイスに逃げて来た事が始まり。
スイス：
1291年独立、32州による連邦制になる。
1550年に最後の戦争、ハプスブルグ家を追い出した。
1815年 永世中立国となる。
- 第二次世界大戦後、Tax シェルターから Wealth Management Center になる。
- 日本の国家予算の何十倍ものお金が集まっているスイス国内では投資先がないので グローバルに投資せざるを得ない状況が根底にある。＝スイスには国際投資のプロが集まっている。

◆Wealth Management の目的

まずは“Peace of Mind”が大切な要素
そして、下記のような項目が上げられるそうです。

- Preservation of Capital
- Utilization of Capital
- Maximizing of Return
- Tax Efficiency
- Estate Planning
- Confidentiality



そして、お金のマネジメントで大切なポイントは下記。

1. Make it simple
2. Take the long-time view
3. Diversity
4. Minimizing risk
5. Invest only small portion of your wealth in risk assets

決して No Risk High Return といったものは存在せず、一口に Wealth Management と言っても人生のそれぞれのタイミングにあった対応が必要。ただ、儲けさせてくれればいい、という話ではありません。



「日本の相続税世界最悪レベル。自宅にまで課税すると言うのは、憲法違反なのでは？」という話も飛び出して、会は終始盛り上がっていました。普段当たり前のように捉えていても世界の基準に照らし合わせると考えさせられることも多く、普段なかなか学ぶ機会の限られた「お金や資産の運用」というテーマに皆さん興味深く耳を傾けられていました。

2013年2月9日 汐留パークホテルでのセミナーにて（聞き手：編集部 高増）

上智大学通信 2013年3月26日発行 第379号より

賓客来校

▼一月三十日、マルコ・フアラニ駐日ブラジル総領事とブラガ・マルセーラ領事代理が本学を表



フアラニ総領事

▼二月十二日、ドメニコ・ジョルジ駐日イタリア大使とコッラド・モルテ



ジョルジ大使（中央）

敬訪問し、滝澤正学長、ホルトガル語学科のトイダ・エリナ学科長と懇談した。

創立百周年記念事業

ソフィア・ルネッサンス連続講演会

二月二十一日、第三十四回ソフィア・ルネッサンス連続講演会が在ルクセンブルク日本国大使の西ヶ廣渉氏を講師に迎え「ルクセンブルクの生き方」オリッシン先生（ルクセンブルク大司教・前本学国際交流担当理事）の母国の知恵」と題して行われた。

西ヶ廣氏はルクセンブルクが一八七〇年頃の製鉄業を中心とした産業構造から金融業への転換に成功し、一九六〇年以降欧州の金融センターとして発展してきた経緯を説明。さらに近年は産業の多様化、研究開発・教育を重視している現状を紹介した。そして、九六三年のルクセンブルク領の誕生以降、二度にわたる他国による占領の歴史が、結束の重要性や個人よりも公共的な利益を優先させるルクセンブルクのアイデンティティを形作っていると語った。また、ルクセンブルクでは、三つの公用語（ルクセンブルク語・フランス語・ドイツ語）に英語を加えた四言語の習得が個人に求められる多言語環境であることや、他国に比べ労働者の保護が厚い反面、企業の効率化に困難な側面があることなどを指摘した。



講演する西ヶ廣渉大使

ほかにも西ヶ廣氏は二〇一二年までリビア特命全權大使を務めていたことから、二〇一一年の紛争時に邦人の脱出を支援した後、大使館を閉鎖してチュニジアへ脱出した経験についても語り、集まった参加者は貴重な話を耳を傾けていた。



SOPHIA 100th ANNIVERSARY 2013

上智大学は2013年に創立100周年を迎えます。

SOPHIA, A UNIVERSITY WITH A GLOBAL MISSION

～世界に並び立つ大学へ～

<http://sophia100.jp/>

「母校と経済学部の創立 100 周年を祝う」 経鷲会 100 周年記念事業にご協力を！



2013 年 4 月 吉日

ソフィア会副会長・元経鷲会会長 戸川 宏一 (1963 年 経・商卒)

今年 2013 年は、母校上智大学と共に経済学部創立 100 周年記念の年を迎えました。

母校と経済学部の創立 100 周年を、心よりお祝いしたいと思います。

上智大学のルーツは、1549 年にキリスト教を伝えるために来日したイエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルまで遡ります。このザビエルの“都に大学を”の意志を尊重した、時の教皇ピオ 10 世により、3 人のイエズス会師が日本に送られ、1913 年に母校の創立が実現しました。その時から 100 年目の今年 3 月に、上智大学創立 100 周年記念「教皇返礼ローマの旅」が特別に企画され、私も参加しました。

この旅では、今でもフランシスコ・ザビエルの右手の遺骨のあるヴァチカンのジェズ教会で、イエズス会・ニコラス総長の司式により、旅に参加した約 80 名の大学関係者、卒業生、学生と共にミサが捧げられました。また、この旅のローマ滞在中に、イエズス会出身の新しい教皇フランシスコが誕生いたしました。はじめてフランシスコという教皇名が使われたフランシスコ 1 世の誕生、しかも初めてのイエズス会出身の教皇誕生は、私達上智大学にとって 100 周年を記念するに相応しい、素晴らしい出来事であり、とても感慨深いことだと思います。



ザビエルに由来する母校のキリスト教精神が、改めて母校と私達母校卒業生にとって大切なことであり、私達がこれまでの上智一世紀の叡智を、未来に繋げる貴重な役割を担っていることを痛感しています。

すでに昨年エコノミアンでも説明がありましたが、経鷲会は、昨年 10 月に「経鷲会母校創立 100 周年事業」を立ち上げました。この事業は、経鷲会がこれからも母校の精神を大切に、その役割を少しでも果たすための一助となるべくスタートさせたものです。この事業のために皆様から集めさせていただく基金は、経鷲会が今後とも母校と経済学部を支援するために使われます。その多くは、3 年前に発足させた、経済学部の現役学生支援のための研究奨励金に当てられます。この研究奨励金制度によって、私達経済学部の卒業生が、上智の精神を持つ優秀な人材を一人でも多く社会へ輩出して、将来に向かって母校に貢献することを目指しています。これまでは毎年 5 名の学生に奨励金を贈ってきましたが、今年は 100 周年を記念して 10 名の学生に奨励金を贈ることになっています。

経済学部卒業の皆様一人でも多くこの事業にご賛同いただき、発起人になっていただきたいと思っています。発起人といたしましては、一口 10,000 円以上の寄付をお願いしておりますので、どうぞ皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

皆様の今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。

